

保育園 サーベイランス



国立感染症研究所
感染症情報センター

保育園の感染症対策のために「保育園欠席者・発症者情報収集システム」を開発しました。

子どもを感染症から守ろう！

8月号にパンフレットが掲載されています。
9月号に申し込みから開始までの説明、月報と日々のグラフの理解のしかたの説明が掲載されています。
10月号に毎日のデータ入力後の参照の説明、早期探知の説明、及び早期対応の事例が掲載されています。

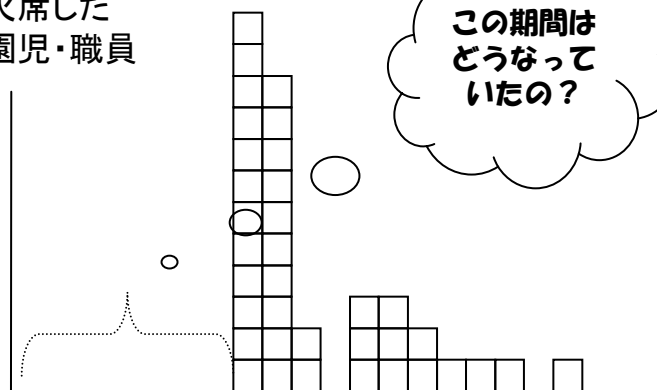
幼稚園は「学校欠席者情報収集システム」に含まれています。お問い合わせください。

「感染性胃腸炎、インフルエンザの流行に備えよう！」

毎年、秋から冬にかけて感染性胃腸炎(主にノロウイルス)が流行します。皆さんの保育園では、何人くらい園児がお休みをしたり、体調不良になっていませんか？

下の図は、ある保育園で感染性胃腸炎で欠席者がふえた様子を示しています。8日木曜日に12人の欠席者がでました。そして次の日も10人の欠席者と、大変に多くの園児及び職員が休みました。いつごろから増え始めたのでしょうか？

感染性胃腸炎で
欠席した
園児・職員



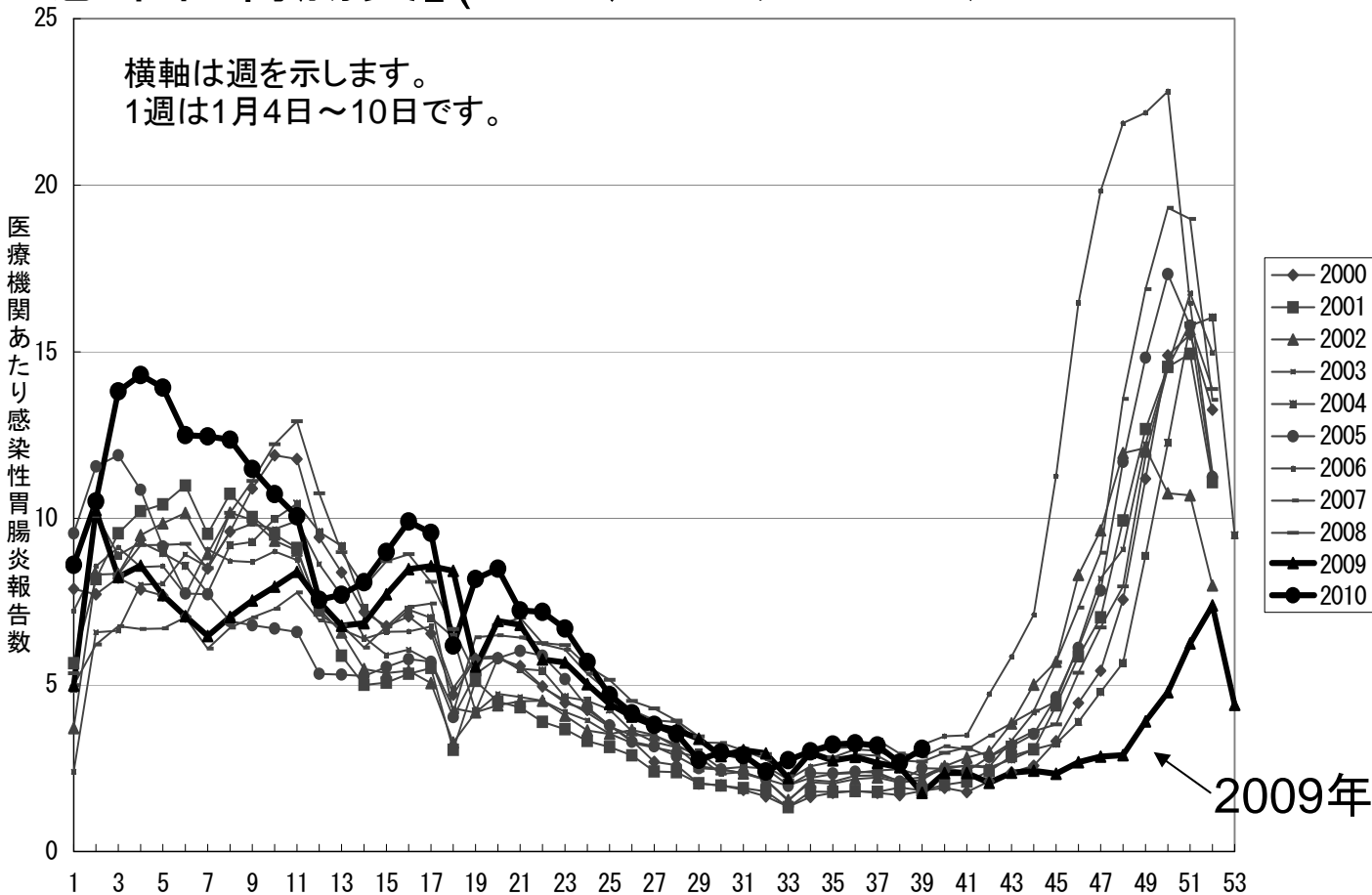
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
木金土日月火水木金土日月火水木金土日月

このように、大変な事態になってから、調べるのは大変です。急に増える前の段階で気がつくことができたでしょうか？

常日頃から、保育所全体の動向を把握することが、感染症の対策では大切です。

2010年10月現在の、インフルエンザ、感染性胃腸炎、おたふくかぜの発生動向をみてみましょう。

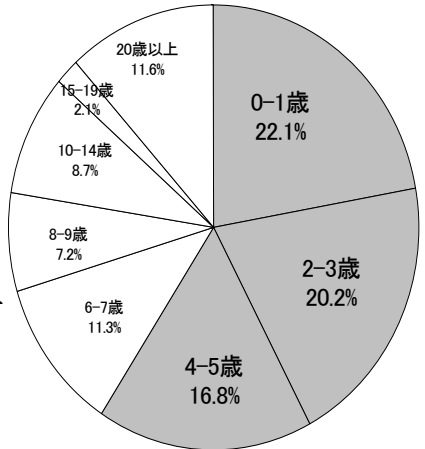
「感染性胃腸炎」(主に、ノロウイルス)



上の図(*)は、医療機関から報告された感染性胃腸炎(主にノロウイルス)の報告数です。毎年同じような流行を繰り返しています。

「夏季に減少して、秋季に入り増加していきます。」

ノロウイルス感染症の主な症状は下痢・嘔吐です。症状のある者からの嘔吐や下痢によって汚染された手指や物品を口にいたりなめたり、又嘔吐物が床に飛び散った際の飛沫を吸い込んだりすることによって感染は広がっていきます。



2010年第1週から第5週年齢別

感染性胃腸炎は、右の円グラフのとおり、0-5歳が58%を占めています。保育園に通う園児の年齢です。

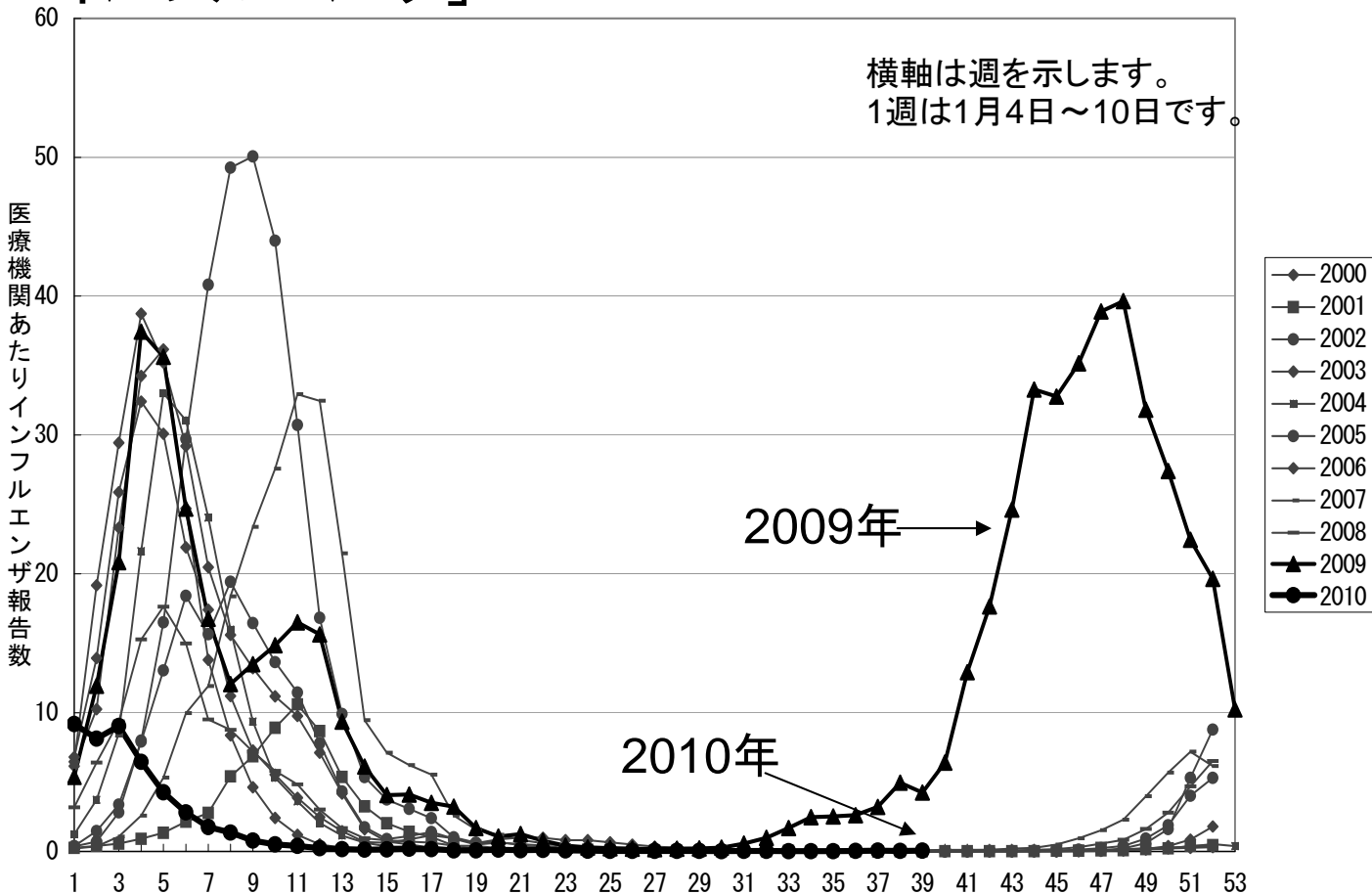
昨年度(2009年)は折れ線グラフの▲で示していますが、例年に比べてかなり少ない報告数でした。理由ははっきりとはわかりませんが、おそらく新型インフルエンザの影響があったかとおもわれます。昨年度罹患しなかった園児も多いので、そのため今年は罹患する園児が増加する可能性があります。

園児が嘔吐をした場合は、嘔吐物の処理には十分に気をつけましょう。

そして、その場にいた園児の健康観察を十分に行いましょう。ノロウイルスに感染してから発症するまでの期間(潜伏期間)は1~2日間です。



「インフルエンザ」



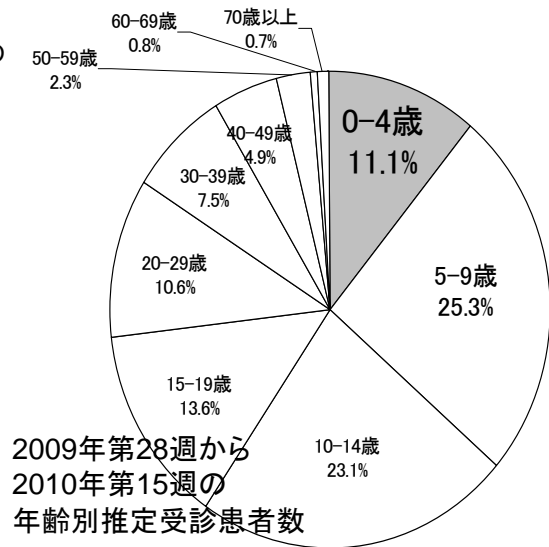
上の図は、定点医療機関から報告されたインフルエンザの報告数です。このグラフからわかるように、毎年50週くらいの冬から流行が始まっています。

昨年度2009年春に、新型インフルエンザが国内でも発生し、夏に本格的に流行にはいりました。昨年度は、折れ線グラフの▲で示していますが、とても早い時期に流行が始まりました。

新型インフルエンザは右の円グラフのとおり、5-9歳が最も多く罹患しており、0-4歳は11%と、例年と比較すると、0-4歳の罹患者の割合は少ない状況でした。

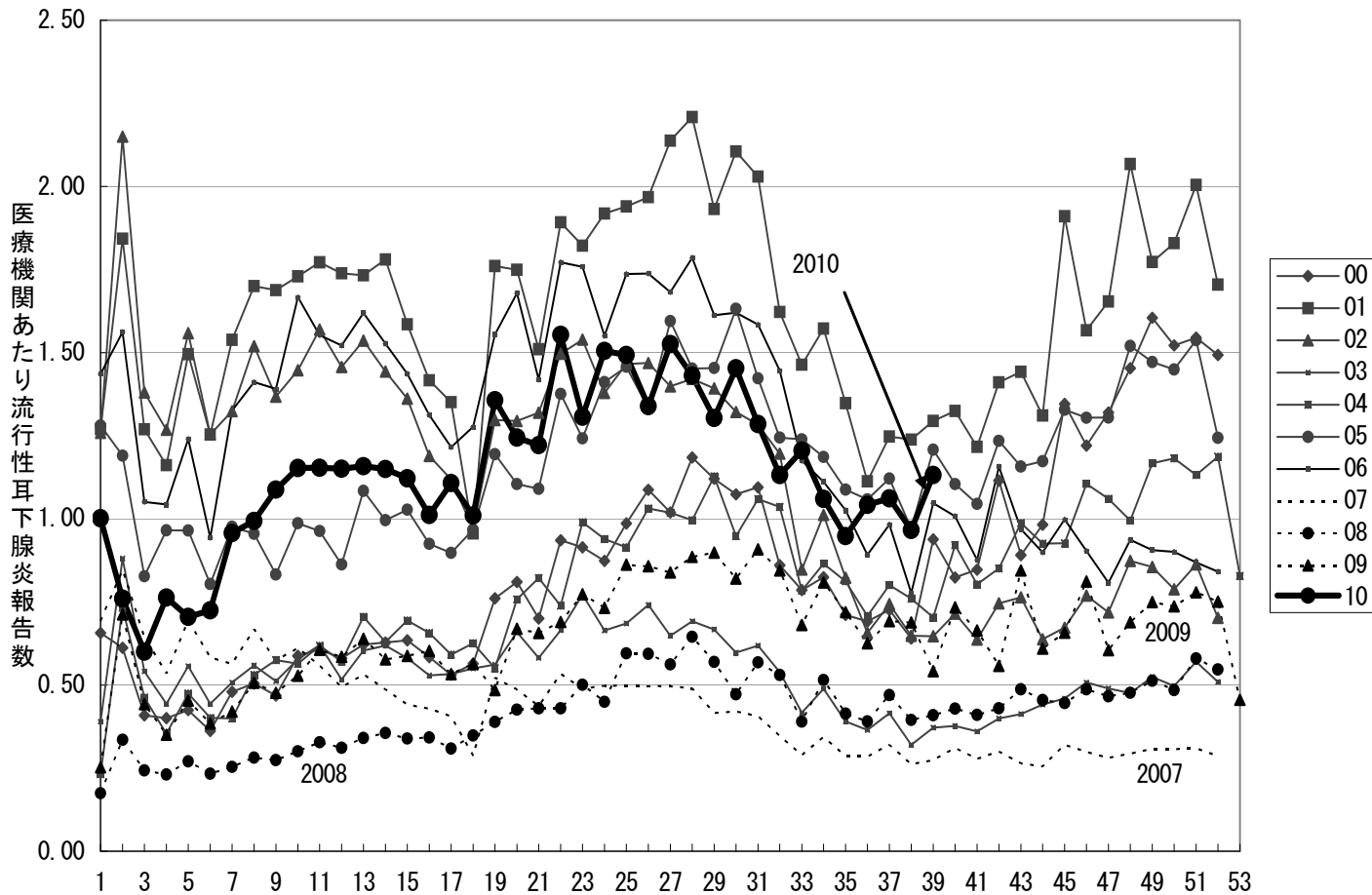
今年は、昨年度インフルエンザに罹患しなかった園児も多いので、流行時には罹患する園児が増加する可能性があります。インフルエンザの予防接種は、10月には接種が始まりました。昨年のように優先接種ということはありません。

保育施設は、周辺地域でのインフルエンザの流行状況について、詳細でリアルタイムに把握しましょう。



保育施設へのインフルエンザの侵入を早期に探知し、園医等の関係者への周知により迅速に対応しましょう。

「おたふくかぜ」流行性耳下腺炎



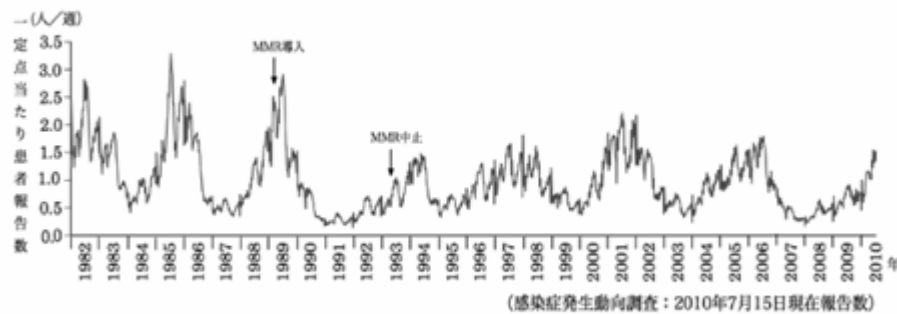
今年2010年は、例年に比べて、おたふくかぜでお休みする園児が増えている保育園はありませんか？

上の図は、医療機関から報告された流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の報告数です。流行している年もあれば、流行していない年があることにお気づきでしょうか？

2001年、2006年と大きな流行がありました。

2007年、2008年、2009年は、点線でグラフで示しましたが、とても少ない報告数でした。そして、2010年今年、これまでの3年に比べて報告数が増加しています。これから2011年にかけて増加していくものと考えられます。

図5. 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数の推移(1982～2010年第27週)



左のグラフは、1982年からの医療機関から報告されたおたふくかぜの報告数です。グラフのように、4年の周期性があります。

今年から来年にかけて増加していくものと考えられます。

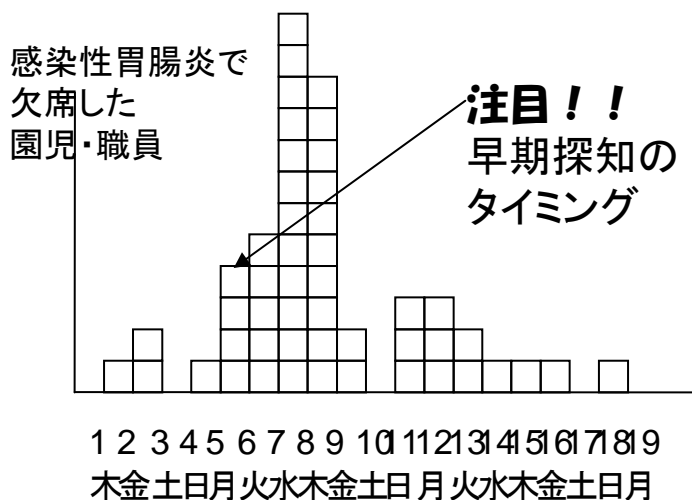
こうした全国の場合と比べて、自分の保育園での状況はどうなっていますか？ 同じ動向ですか？ 違う動向ですか？

「感染性胃腸炎、インフルエンザの流行に、“地域で”備えよう！」

最初の事例をみてみましょう。8日木曜日に12人の欠席者がでる前に、前日、前々日には数名の欠席者が始まっています。

症状のある園児の動向を早期に探知できるかどうか、「早期の対応」につながります。多くの子どもを感染症から守ることにつながります。

そのためにも、まずは自施設の動向を把握しましょう。



あるA保育園より連絡がありました。

「保育園サーベイランスをはじめてみましたが、一ヶ月つかってみて、メリットが感じられないので、やめてもよいでしょうか？」

自治体(保育課)からの案内をみて、やってみようと思い申し込みをされたA保育園です。まずは、やってみようとおもってくださったこと、一ヶ月続けてくださったA保育園の努力に敬意を示します。地域で、取り組みをはじめたのが1園だけでした。



「ぜひ一年使ってみてください。A保育園の動向が把握できるとおもいます。春には何が、秋から冬にかけて何が何歳に流行するのか、わかります。数年続けると傾向がわかってきて対策がしやすくなります。また、地域で参加する保育園が多くなれば、流行の始まりが把握できます。学校の情報があれば、メリットは更に大きくなります。」

A保育園さんから、再度お返事がきました。

「時々面倒になることもありますが、もう少しがんばってみます。今日、保育課へ行きお話ししてきました。保育課は、『県を通して厚生労働省からきた文書なので特別登録するようにという勧めでもなかったもので、、、』と言われました。」

できれば地域のすべての保育園でシステムを利用することが、もっとも効果的です。地域の流行状況をリアルタイムに正確に把握できます。自治体〔保育課〕にとっては、もし集団感染が発生した場合に、個々の保育園に報告してもらう必要がなく、自治体〔保育課〕側で、過去の状況を検索して把握することができます。同時に、関係者と連絡をとりやすくなります。

出来る限り多くの保育園にご参加いただき、感染症による子ども達の健康被害の発生を最小限にすることにお役立ていただければ幸いです。

市町村保育所(園)担当にとっての保育園サーベイランス

国立感染症研究所感染症情報センター

主任研究官 大日康史

10月上旬現在、保育園サーベイランスにはおかげさまで約800の保育所(園)のご参加を頂いており、市町村単位では、17市町村(政令指定都市1、中核都市1含む)が参加をいただいております。その機能、メリットをより大きくするためには、少なくとも市町村単位で、可能であれば公立、民間の両方で、また複数の隣接する市町村で実施されることが望ましいです。そうすると、中学校区単位での流行状況が各保育所(園)からも確認でき、患者の発生から地域での広がりを把握していただいて、保育所(園)での対策や保護者への情報提供にと活用いただけます。もし関係者のご努力によって都道府県単位で実施できればメリットは最大になります。こうした自治体単位での実施には、各自自治体の保育担当課のご尽力、とりまとめが不可欠です。

少なくともこれまでは保育所(園)での感染症の状況は、流行が大きくなる限りは、あるいは重症にならない限りは個別の保育所(園)の努力にまかされ、感染症対策における行政の役割は大きくなかったかもしれません。これは学校(幼稚園含む)が、学校保健安全法によって感染症の状況を保健所に知らせなければならない、ことと大きな違いです。常識的に考えても保育所(園)の方が感染症の流行に常にさらされているのに、対策は学校の方が手厚いというのは奇異な感じがします。2009年に発生した新型インフルエンザでは、例外的に保育所(園)でのインフルエンザの状況も行政が収集しておりました。また例外的に休園や登園自粛をされた保育所(園)も数多くありました。こうした経験をのど元過ぎれば何とやら、で忘れてしまうのではなく、保育所(園)での感染症対策を、保育課、保健所をはじめとする行政においてももしっかりやっていくきっかけになればと願っております。

保育課の方とお話しをお伺いする中で、感染症の発生状況の月報を取りまとめられている自治体もあれば、されておられない自治体もあることに最近初めて気づきました。もちろん月報を取りまとめているからといって、既に数週間前の状況ですので、それが直ちに対策に結びつくものではありません。保育園サーベイランスでは、日々の入力蓄積として月報が自動的に作成されます。保育課、保健所からは、各保育所(園)の月報はもちろん、その集計も自動的に届けられます。もちろん月末でなくとも随時、保育課、保健所からは管内の発生状況を把握できます。保育園サーベイランスの導入によって、これまで月報を作成されていなかった自治体においても、保育園サーベイランスの副産物として月報も活用していただければ、望外の喜びです。

お伺いして説明会を実施させていただきます。ご連絡ください。